

## 秩父 34 ヶ所札所のバリアフリーに関する研究

## Study on barrier-free in 34 Chichibu temples.

山岸 大雅<sup>1</sup>, 田中 賢<sup>2</sup>Taiga Yamagishi<sup>1</sup>, Yasushi Tanaka<sup>2</sup>

Abstract: We investigated the barrier-free of 34 temples in Chichibu. Although all temples have barrier-free requirements, they have not been realized. The situation of the barrier of the route from the parking lot to the main hall is made into a drawing and analyzed.

## 1. 秩父 34 ヶ所札所巡りとは

札所とは仏教の霊場のことで、巡礼者が参詣のしるしとして札を受けたり取めたりすることからその名がある。

古くは、参拝の証として木の札を打ち付けていたため、巡拝することを「番を打つ」というようになった<sup>※1</sup>。

現在は、参拝の証として納経帳や宝印軸が利用されている(写真1:筆者が参拝時に使用した納経帳)。

秩父札所のおこりは、文暦元年(1234)甲午3月18日開創と伝えられ、長享2年(1488)の秩父札所番付(札所32番蔵)が実在することから、既に室町時代末期には秩父札所があったと考えられ、江戸時代になると観音信仰は庶民の心の支えとして流布し、隆盛を見るようになった。

## 2. 研究の背景

近年、御朱印を集めながら寺を巡ることが人気になっている。多くの世代の人がそれぞれの目的を持ち御朱印を集める中で、健常者だけでなく、障害者が御朱印を集めたいと考えた時に、建築的なバリアを理由に諦めてしまっているのではないかと考え調査を行うことにした。

## 3. 研究の目的

それぞれの寺で、修行的な意味合いのバリアは当然、存在するが、それ以外の本来不要なバリアに対して、どのような対処を行っているのかを明らかにする。

収集した情報をもとに、34ヶ所の中から比較的回りやすく、多くの人が参拝に来られるよう工夫されたお寺をまとめたマップを作成することを目的とする。

## 4. 調査方法

秩父観光協会から出版されている秩父札所道案内<sup>※2</sup>に沿って、すべての札所を



写真1 御朱印

訪れ、多目的トイレや階段手すりやスロープ設置などのバリアフリーチェックを行い写真に納める。

また、各寺の住職に対し①バリアフリーについての意識、②実施した配慮、③バリアフリー化が困難な箇所と原因、について聞き取りをする(34ヶ所全てで実施)。移動手段については、巡拝者と同じルートを辿ることとし、徒歩または自転車を使用した。移動時に巡拝者に遭遇した際にも寺のバリアフリーの必要性について聞き取りをした(4ヶ所・5人に聞き取り)。調査日程は、2018年11月24日から12月7日で、札所34ヶ所を調査した。総移動距離は約110kmとなった。

## 5. 調査結果

調査を通じて、100%の寺がバリアフリーに関しての意識がありニーズを認識していることが分かった。中には、階段部分にスロープが設置され、多目的トイレが設置されているなど、十分なバリアフリー化が行なわれている寺があった(4、7、8、12、13、21番)。

建築的なバリアフリー化を行うだけでなく、本堂を解放し気持ちの面で満足してもらうなど、ソフト面での工夫を行う例も見られた(12番)。しかし、費用面の問題や立地の問題などにより、多くの寺でバリアフリー化が行えていないのが現状である。参拝者への聞き取りでは、「お遍路は修行的なものなので多少不便でも構わない」という意見を持つ者もいた。総じて参拝者は健脚な高齢者である。



写真2 駐車場の砂利敷きに枕木を埋め込み路面を平坦にしている。



写真3 スロープを設け横の仕上げを石垣に合わせ意匠に配慮している。



写真4 正面アプローチを階段からスロープに変更している。

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

バリアフリー化の事例を写真 2 から 4 に示す。何れも極力バリアフリーの配慮を目立たないような意図があった。

## 6. 各札所の参拝のしやすさ

バリアフリーの確認項目は以下の 4 点である。①多目的トイレの有無・内容、②寺のメイン動線以外のスロープなどによる迂回ルートの有無、③駐車場からの距離、④階段の段数・勾配、などである。

### 6-1. 最も参拝しやすい寺（多目的トイレ付き）

札所 4、7、12、13、21 番（14.7%（5/34 ヶ所））。

これらの寺は多目的トイレが設置されている。境内の段差も少ない（10 段以内）。階段が必要な場合でもスロープが設置されている。もしくは裏口から入るなどの別動線がある。駐車場からお寺まで近い（30m 以内）。などの配慮がされており、最もバリアフリーが行われている。

### 6-2. 比較的参拝しやすい寺（多目的トイレなし）

札所 1、2（納経所<sup>\*3</sup>）、3、5、6、8、9、15、16、18、19、22、28、29、33、34 番（47.1%（16/34 ヶ所））。

アプローチは可能だがトイレの配慮はなされていない。また、事前連絡により迂回路の使用や境内まで車で入ることが可能（8、16、34 番）。

### 6-3. 比較的参拝が困難な寺

札所 5（納経所）、14、17、25 番（11.8%（4/34 ヶ所））。参拝するのに数段の階段を使わなければいけない。境内に入った後にも段差がある。もしくは段差はないが駐車場から距離がありアプローチが困難である。

### 6-4. 非常に参拝が困難な寺

札所 2、10、11、20、23、24、26、27、30、31、32 番（32.4%（11/34 ヶ所））。

トイレに入りにくい。駐車場までの距離が長い（30m 以上）。迂回路がない。通路が狭い。階段が多い（10 段

以上）。など多くの面でバリアがある。

全ての寺（住職）がバリアフリーの必要性を認識しており、2/3 の寺は立地の関係でバリアフリーが容易である。しかし 1/3 の寺は高低差などの理由でバリアフリーが困難である。

今後、バリアフリーマップの制作を試みるが、メイン動線は立位移動の高齢者の移動のしやすさ、迂回路は車いす使用者の移動のしやすさを意識してまとめる。

また、各寺のソフトなバリアフリーの紹介も行う。

## 7. 今後の調査、まとめについて

本稿では参拝の行いやすさを主観的に判断した。また巡拝者と同じルートをたどるため自転車を利用し 34 ヶ所全てのお寺を訪れたが、今回の調査により巡拝者の多くが車を利用して 34 ヶ所巡りを行っていることが分かった。

今後の調査では、駐車場から本堂までの動線に重点を置き、再度 34 ヶ所全ての寺を調査する。

駐車場から本堂までの動線を定量的に判断するために、各部位の床仕上げ、スロープ勾配、階段部の段数・踏面・蹴上・手すりの長さ、乗り越え段差の数などを可視化（見える化）する。計測にはレーザー距離計測計（BOSCH 社製・GLM500）、高度計（SUUNTO TRAVERSE）を用いる。

例として札所 1 番を調査した四萬部寺の結果を図 1 に示す。

### 参考・引用文献、注釈

[1]秩父三十四所観音霊場 (<http://chichibufudasho.com>)

[2]「秩父札所道案内」秩父札所連合会 平成 29 年

[3]納経所とは、巡礼者が、経を収める場所（御朱印をいただく場所）。

2 番と 5 番は無人寺で納経所が別にある。2 番札所の参拝は難しいが御朱印をいただく処は訪れやすい。

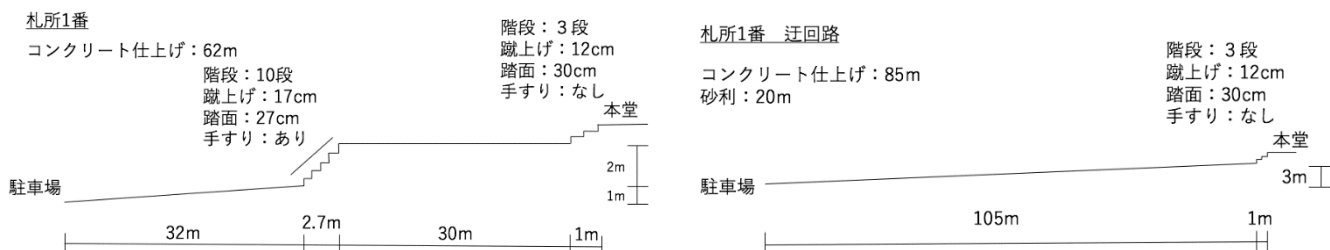


図 1 秩父札所 1 番 四萬部寺の動線（左図はメイン動線、右図は迂回路。模式図のためノンスケール）

通常の動線（メイン動線）では砂利道はないが、迂回路では約 20%を砂利道が占めている。階段は通常の動線では計 13 段、迂回路では計 3 段あり迂回路を利用しても階段は存在する。階段数に対する手すりの設置率は通常の導線では約 77%、迂回路では 0%である。通常の動線ではアプローチの中ほどにある階段が障害となり車いすでのアプローチを妨げている。しかし、迂回路を用いても路面状態が悪く、車いす移動には支障があること。また、本堂付近までは車いすで到達できるが参拝はできず、参拝に対してはソフトな対応が求められる。この調査を 34 寺で行う。